



## 吉川理容所（飯能市）

2014年9月 訪問  
埼玉モダンたてもの学生レポーター  
埼玉大学教養学部 島澤 陽平



西武池袋線 飯能駅近くの、飯能銀座商店街にあり、現在も理髪店として営業をしています。

石造り風の看板建築になっていて、レトロな外観が目を引きます。

現在は2軒続きの長屋になっていますが、建てられた当時は、4軒続きの長屋だったそうです。



入口の扉です。  
理容所を開いた当初から使われていて、木でつくられています。  
開け閉めはとてもスムーズでした！  
扉がつけられている溝を、時々削っているからなのだとか。

ガラスにある、「吉川理容所」の文字が、時代を感じます。



### 建物の中も、とてもレトロ！



今の理容室とは違って木を使っている部分が多く、温かみがある印象です。

白色の天井も、当初は違う色で、喫茶店風のデザインだったそうです。

写真左側にある柱から窓側の部分は、看板建築をつくる際に、継ぎ足した部分だそうです。

入ってすぐのところに、謎の流しのようなものがあります。

これは、洗髪台です。



今の理容室は、それぞれの席に洗髪台がついていますが、昔の理容室では、席から移動して洗髪を行っていました。

↑洗髪シーンを再現してみました！こんな感じです…

洗髪台の下のタイルにも注目してみましょう。  
めずらしいタイルの組み方だと思いませんか？



洗髪台の右わきに、水道のコックがありました。

これは今は使われていませんが、これをひねると、洗髪台の上から水が出たようです。

当時はガスがなかったので、桶にお湯でなく水をためて洗髪をしたそうです。

窓ガラスにも、目を向けてみましょう。

目隠しの柄が、縦の縞模様になっていて、茶色の窓枠と相まって、障子のような雰囲気を受けます。

窓ガラスは4枚あって、当初はすべてこの柄だったようですが、割れてしまったため、今では2枚しか残っていません。





窓の上側は、開けることができ、外気を入れられるようになっています。冷房がなかった建築当時の、お客様への配慮です。



各席の前のテーブルにも、使い勝手がいいよう、細かな気配りが！

なんと、折りたためるようになっているのです。

住まいとの仕切りの壁にも、換気のための扉が開けられています。壁の向こう側は住居スペースで、この扉から、お客が来たかどうか確認もしました。



壁には、この建物と、飯能銀座商店街のスケッチが飾られています。



席の前には、大きな鏡があります。この鏡は、輸入品であるそうで、戦時中は取り外して、親戚の家に預けたほど貴重なものだったようです。今の鏡と違って、水銀を塗った板にガラスを張り付けているので、今でもゆがみがないそうです。

各席の脇にある道具入れです。これは、2代目の店主の特注品だそうです。



これは、飯能に引っ越しに来られたお客様が、寄贈してくれたものだそうです。

あたたかなタッチで、商店街のにぎわいが伝わってくるようです。



待合室も、とてもいい雰囲気を出しています。

赤いソファがアクセントになっています。

これは、開業当時のものではなく、3代目のものなのだとか。



待合室の奥には、火鉢がありました。  
この火鉢も、実際に使っているものなのだそうです。

今は、使い方が分からない、という人も多いようですが…

昔からの道具が多く使われていますが、特に不便なことはいません。

この雰囲気が好きな、昔からの常連さんも多く、人々に愛されている理容室だと感じました。